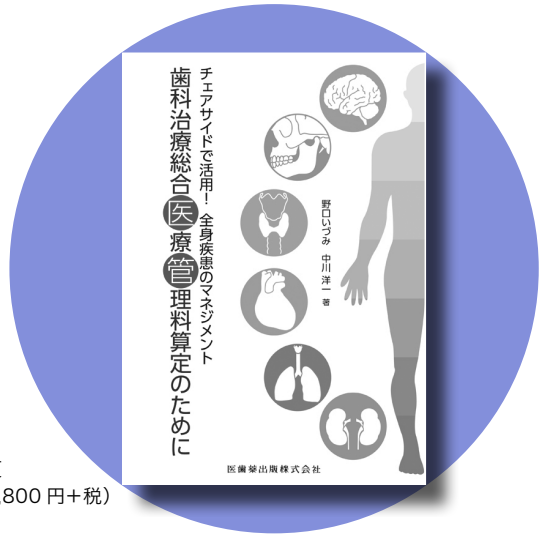
Book Review

チェアサイドで活用！全身疾患のマネジメント
歯科治療総合医療管理料算定のために



B5 判，88 頁
定価（本体 3,800 円+税）
医歯薬出版刊

野口いづみ・中川洋一　著

Reviewer
矢島安朝　Yasutomo Yajima
（東京歯科大学　口腔インプラント学講座）

野口先生と中川先生は，以前より新しい切り口で斬新な書籍をうみ出す，アイデア抜群の名コンビである．今回も期待に違わず，実にみごとに全身疾患のマネジメントを「歯科治療総合医療管理料（以下：医管と略す）」という新しいナイフで切り取り，わかりやすく解説されている．大変ユニークな発想ながらもオーソドックスな良書が出版された．

「医管」という点数は，全身疾患をもつ歯科の患者に対して，医科の主治医との連携によりさまざまな情報を得たうえで全身管理下に歯科治療を行った場合に算定できる．つまり歯科治療中のモニタリングが明確に保健医療のなかに位置づけられたわけである．これは今までにない画期的な制度である．しかし，算定要件や施設認定の問題からか「医管」の普及は芳しくないと著者らは嘆いている．この制度の背景には，世界に例を見ない速度で超高齢社会に向かっている日本の追い詰められた状況がある．高齢者は生理的機能の低下，低栄養・免疫機能低下，臓器障害の顕著化を要因として，多くの疾患を同時に保有する．私たちの診療室内が多病の高齢者だらけになる光景は，間近に迫っているのである．そのようななかで私たちの高齢者に関する，あるいは全身疾患管理に関する知識や技術は万全なのであろうか．「医管」を算定するにふさわしい歯科医師であろうか．

著者は「医管」という保険点数が各診療室でたくさん算定されるようになることを切に望んでいる．なぜならば，「医管」算定の増加に伴い，全身疾患を管理しながら歯科治療を行うことのできる歯科医師が確実に増加することに繋がるからである．全身疾患を理解し，血液・尿検査値を読み取り，モニタを見ながら全身状態を把握し，さらに緊急事態発生となっても対応できるような歯科医師を社会が望んでいる．このことを 2 人の名コンビはよく心得ているのである．

本書の内容は，1 章が「医管」算定のための施設基準の解説，照会状の書き方と医科からの情報提供書の理解，バイタルサインの測定法とモニタ機器の使い方が示されている．特に，医科への照会状は慣れないと厄介なものである．ここでは実例を挙げて，適切な照会状の書き方が起承転結を意識するようにと指導している．2 章は「医管」対象の 15 疾患が詳しく記述されている．疾患の解説や歯科治療での問題点と対処法とともに，「問診と診察で把握すること」「情報提供書で把握すること」が明確に記載されている．読者はこれらをチェック項目とすることにより，もれなく情報を把握できる．さらに，すべての疾患に「照会状の記載事項」「診療録の記載事項」が載っており，「医管」算定時に手本となる記載事項となる．すべて豊富な図表とともに示されているため，大変理解しやすいと感ずる読者が多いであろう．3 章は歯科治療時の偶発症である血管迷走神経反射，過換気症候群などの実際の臨床で頻度の高いものを解説している点もありがたい．

本書を読み終わると，著者たちが臨床の最前線で長い間活躍してきたことがよくわかる．臨床医が最も必要とすることを簡潔かつ的確に記述されている点は他書と一線を画している．口腔も全身の一つである．私たち歯科医師はもっと全身疾患を知らなければ歯科医療を安全に行うことはできないはずである．そのためには医科と歯科の連携は必須であり，「医管」は今後の歯科医療のターニングポイントとなる可能性が高い．

名コンビの 2 人が，未来の歯科医療を切り開く志のある歯科医師のために素晴らしい著書を発行してくれた．ぜひ，診療室で有効活用していただきたい．